

憲法改正原案 提出の意向

自民・茂木幹事長 「選挙後、早期に」

自民党の茂木敏充幹事長は20日、報道各社のインタビューに応じ、参院選後に憲法改正原案を国会に提出したいとの考えを表明した。原案の具体的な内容には触れなかったが、自民は原案のたたき台となる改憲4項目として「自衛隊明記」などを掲げている。

参院選を前に、茂木氏は「選挙後できるだけ早いタイミングで憲法改正原案の国会提案、発議を目指したい」と述べた。

今年の通常国会では、憲法改正に前向きな国民民主党や日本維新の会の協力も

あり、衆院憲法審査会の開催は過去最多の16回にのぼった。茂木氏は「参院選では憲法改正に前向きな政党が国民の支持を得ることを期待する」とした上で、

「主要政党間でスケジュール感を共有し、早期に日本国憲法の改正を実現したい」と語った。賛同する政党と共同で原案をつくる考えだという。

また、参院選の勝敗ラインについては「与党で改選議席の過半数の獲得も含め、1議席でも多く積み上げていきたい」と述べた。参院選は今回改選の選挙区

74議席、比例区50議席に加え、神奈川選挙区の欠員補充の1議席を合わせた125議席を争う。過半数は63議席となる。